

個別施策管理シート 対象事業年度 平成 24 年度

政策名	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策名	01 国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策名	04 在来貨物等取扱機能を充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運
	サービスの対象物(何を)	公共在来・フェリー岸壁、荷さばき地、保管用地
	意図(どういう状態にしたいのか)	在来貨物等が効率的で円滑な取扱がされる
内容	近年、コンテナ貨物輸送が進展する一方で、在来貨物やフェリー貨物輸送が今後も重要な輸送モードであることは間違いありません。その輸送効率を向上させるため、在来船の大型化への対応や環境負荷の少ない輸送モードであるフェリー施設の充実などを図ることにより、在来貨物等が効率的で円滑に取り扱えるようにしていきます。また、名古屋港は国際バルク戦略港湾に選定され、穀物産業の国際競争力の強化のため、穀物を取り扱うターミナルの更なる拠点化、高質化を図ります。	
目標	在来ふ頭・フェリーふ頭での貨物取扱量の増加や穀物輸送の効率化を図ります。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量の減少 高速道路の料金体系見直し政策

成果指標	実績等	年						目標 H24	指標の説明(式)
		H20	H21	H22	H23	H24			
外貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績	千 トン	3,833	3,143	3,308	3,662	3,844	4,000	・目標値は、直近(19年)の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まない
	達成率	%	95.8	78.6	82.7	91.6	96.1		
内貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績	千 トン	4,697	3,520	3,484	3,703	3,279	4,700	・目標値は、直近(H20)の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まない
	達成率	%	99.9	74.9	74.1	78.8	69.8		

2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値 (年度)	平成24年度実施事業に基づく評価結果					
					実績	実績	実績見込み		平成24年度 末までの 状況 ※1	平成25年度以降の取組の方向性	備考(判断の理由・目標年次の変更等)			
					上段: 指標達成状況				下段: 事業費(千円・人件費込)	事務事業 ※2	成果 ※3	コスト ※4		
	(企画調整室) 計画担当	西部木材港再編計画の策定(港湾計画の策定)【再掲】(個04事01)	木材流通の動向ならびに、木材港及び隣接する木材団地の将来のあるべき姿を調査研究し、西部木材港地区の土地利用を検討します。	策定進捗率(%)	34.0 (1,696)	38.0 (1,810)	50.0 (6,973)	100 累計 (H25)						【本掲】「09ロジスティクス機能を拡充する」(個09事04)にて評価
	(企画調整室) 計画担当	フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画の策定)(個04事02)	フェリー需要の動向を踏まえ、利便性向上のための検討を行うとともに、港湾運営会社制度への対応も視野に入れた検討を行います。	策定進捗率(%)	34.0 339	38.0 345	50.0 1,743	100 累計 (H25)	やや遅れ	継続	↗	➡		環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に取り組むため。
	(企画調整室) 事業担当	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業(個04事03)	複合一貫輸送に対応した内貨ターミナル用地の基盤施設整備 規模: 7.1ha	事業進捗率(%)	79.8 0	79.8 0	79.8 0	100 累計 (H25)	遅れ	継続	➡	➡		具体的な土地需要が定まらない中で、状況を見極める必要があるため。
	(企画調整室) 事業担当	飛島ふ頭(西)ふ頭用地整備事業(個04個04)	荷捌き施設及び保管施設としての機能強化のための貯木場埋立 規模: 6.1ha	事業進捗率(%)	24.8 0	24.8 0	24.8 0	100 累計 (H26)	遅れ	継続	➡	➡		土地需要を見極めながら、整備を進める必要があるため。
◎	(企画調整室) 計画担当	国際バルク戦略港湾の実現化に向けた調整(個04個05)	北浜ふ頭の穀物取扱機能について、アジア主要港と比べて遜色のない物流コスト・サービスの実現を図るとともに、将来的な穀物ターミナルの保管機能・生産機能の更なる拠点化・高質化、船舶の大型化への対応を32年度を目処に実現を図るための調整を行います。【再掲】個11事06	国際バルク戦略港湾推進協議会及び作業部会の開催(回)		1 58,463	1 20,483	2 (H32)	順調	継続	➡	➡		目標年次に向けて、関係者と調整を図っていく必要があるため。
○	(企画調整室) 事業担当	北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備の事業化(個04個06)	穀物の保管機能及び生産機能の移転集約、拠点化に向け、北浜ふ頭地先で埋立てによる新食糧コンビナート用地(約70ha)の確保に係る調査及び手続きを行います。【再掲】個11事07	作業進捗率(%)			8.3 86,289	100 累計 (H27)	順調	継続	➡	➡		目標年次に向けて、着実に事業化をしていく必要があるため。
				施策コスト (事業費合計)	339	58,808	108,515							

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。
注) 目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として24年度の間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

平成25年度以降の取組の方向性			平成25年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5)
区分	成果※3	コスト※4	<ul style="list-style-type: none"> 港湾計画の改定を進めるため、成果は拡大としますが、コストについては、着実に取り組むため維持とします。
拡大 維持 縮小	↗	➡	
今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)			<ul style="list-style-type: none"> 国際産業ハブ港として、多様な在来貨物の取扱機能を充実させることは、背後圏産業の競争力強化に向けて重要であり、効率的で円滑な取扱を目指します。 国際バルク戦略港湾の実現に向けて、関係者調整とともに新食糧コンビナート用地の埋立にかかる調査等を引き続き取り組み、早期の土地造成を目指します。 フェリーふ頭将来計画の策定に関しては、関係者との調整を進め、早急に25年度を目標に取り組んでいきます。
PLAN			
DO			

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

前年度の評価結果を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> 国際バルク戦略港湾の実現化に向けて、関係ユーザーや関係行政機関等で検討会を行いました。引き続き実現に向け関係者との調整など、順次取り組んでいく必要があります。 新たな事務事業(北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備の事業化)を追加し、埋め立てに係わるアセスメントや土質調査を行いました。 フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画)については、関係者との調整を進めておりますが、場所、規模などの確定がされていないため、早急に取り組んでいく必要があります。 稲永ふ頭の用地整備は、具体的な土地需要が定まらないため、暫定的ではあるがモータープールとして活用しており、状況を見極めながら本格的活用に取り組む必要があります。 飛島ふ頭の用地整備は、増えてきた土地需要や経済動向を見極めながら、整備を進める必要があります。 	
構成事務事業の適正性(構成される事務事業で個別施策の目標を達成できているかどうか。できていない場合は改善策を記入)	
<ul style="list-style-type: none"> 事務事業の構成内容は、概ね適正です。 	

個別施策04